

# 学力向上に向けた日常の授業改善

## ～国語科を軸に、「言葉の力」を高める～

### 湧別町立湧別小学校 学級数9 (校長 秋山 康則)

#### I はじめに

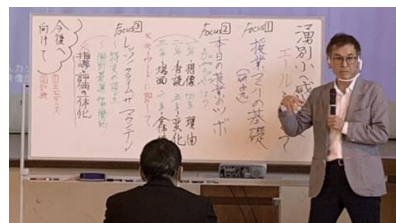
本校は、湧別町学校力向上事業の中心校として、日常の授業改善に継続的に取り組むとともに、授業公開や校内研修を広く発信し、町全体の学力向上を目指してきた。

#### II 実践の概要

##### 1 学校全体で授業改善を推進するための手立て

###### (1) 組織の構築による校内の方向性の共有

研修部がリーダーシップを発揮し、ミドルリーダーと連携しながら、日常的に授業を互いに見合う取組により、学校全体での授業改善を図った。また、小学校国語の専門家である樺山敏郎先生(大妻女子大学准教授)を外務講師として招聘し、直接、指導助言を受けた。



【外部講師から指導助言を受けた授業づくり研修会】

###### (2) 検証改善サイクルの充実

全国学力・学習状況調査結果を学校全体で共有し、授業づくりにつなげてきた。とりわけ、課題の見られた指導事項について、重点的に指導を行ったり、類似問題を作成して繰り返し取り組ませたりするなど、授業の中で活用することにより、検証改善サイクルの充実を図った。



【山登りをイメージしたプロセスデザイン】

##### 2 授業改善の具体の共有

###### (1) 付けたい力の明確化と教師と児童でつくる単元デザイン

単元や一単位時間の導入部で「こんな学習をして(学びで)こんな力を付けたい」という「ゴールイメージ」を児童と共有してきた。また、山登りをイメージした「プロセスデザイン」を児童と教師で共有することにより、授業の中に「クライマックス(山場)」の見通しや「教師の出番」の計画が立てやすくなり、児童が主体的に学びを調整したり、粘り強く学習に取り組んだりする態度の育成を目指してきた。



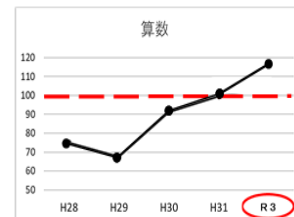
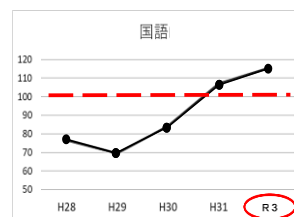
【友だちが書いた推薦文を読み、よさを付箋に書く子どもたち】

###### (2) 学校全体で行う言語活動を中心とした取組

国語科の授業では、3つのZ(時間、字数、条件)を設定して児童に『自分の考え』『根拠や理由』を書き切らせることを大切にしながら、記述力を高める実践を重ねてきた。また、学習の中で身に付けた「言葉の力」(見方・考え方)を、教科等横断的に活用し、実生活の中で活用できる場を設定することにより、児童が学びを実感(自覚)できるように工夫してきた。さらに、町の図書館と連携し、読書環境の整備、地域人材の活用、読書活動と関連させた国語科の単元づくりなど、地域と一緒に取り組む「チーム読書」を進めてきた。

#### III 成果と課題 (○: 成果 ●: 課題)

- 学校全体で授業改善を推進するための手立てを打つことにより、組織の構築や校内でベクトルの統一、検証改善サイクルの確立につながり、全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全道及び全国平均を大きく上回ることができた。また、基礎的な知識や技能の習得に加え、それらを活用する力についても伸ばすことができた。
- 授業改善の具体の共有をすることにより、各教科で児童が主体的に学習に取り組むことにつながり、全国学力・学習状況調査の児童質問紙では、「国語や算数の勉強は好きだ」「国語や算数の授業の内容はよくわかる」などの項目で「当てはまる」と回答した児童の割合が高く、いずれも全国を上回ることができた。
- 教育活動全体との関連を図ることにより、町の図書館や家庭とも連携、協力しながら、読書活動を土台として言葉の力を鍛えることにつながり、子ども主体の楽しい授業、しっかりと力が身に付く学習づくりを進めることができた。
- 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、成果の見られた取組と課題の見られた取組があったことから、年度内に見直しを行い、更なる学力向上を目指していく必要がある。



【全国学力・学習状況調査結果の経年変化】